

# 探究科学科ニューズレター 第3号

## 三校合同課題研究発表会

12月22日(日)、富山国際会議場において、三校(富山・富山中部・高岡)の探究科学科2年による課題研究発表会が行われました。その様子を紹介します。

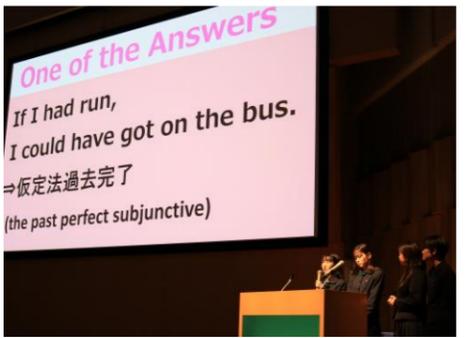
令和6年度の「探究科学科三校合同課題研究発表会」が、12月22日(日)、富山国際会議場で開催されました。県内三校の探究科学科1・2年生、関係教員、教育関係者に加え、高校生、中学生、保護者の方々の参加もあり、会場は非常に熱気に包まれていました。

開会式は、本校2年生武隈心さんの課題研究に対する思いがこもった挨拶で始まり、各校の代表発表が続きました。高岡高校理数科学科代表班「集中測定中」加速度センサで見る姿勢と集中力の関係、富山高校人文社会科学科代表班「Mission Impossible」日本の英語教育はキャパオーバー!、富山中部高校理数科学科代表班「拡散しない指示薬 eco-friendly... ってコト!?」と、各班ともタイトルから聴衆の興味を引きつけるものでした。それぞれ、苦労話や具体的な実験動画や写真・図表を多く用い、英語班は、聞き取りやすい英語で発表するなど、できるだけわかりやすく伝える工夫が各班で見られました。会場からは1・2年生問わず発表や研究に対する質問が多く飛び交い、参加生徒の意欲や知識欲が垣間見られる開会式・全体会となりました。

開会式後は、国際会議場の2階と3階に分かれ、各班がこれまでに取り組んできた課題研究に関するポスターセッションが行われました。各班、ポスターの内容や説明方法に工夫を凝らし、発表を通して高校生や教員、ここから参加した一般の参加者と、活発な意見



開会式挨拶



富山高校代表発表

交換を行いました。

他校の探究科学科の生徒や一般の参加者から質問を受けることは、緊張感を伴うものですが、他校の発表から学ぶことは多く、生徒たちは、大きな刺激を受けていました。「自分の視野を広げることができ、貴重な経験となった。」「去年、先輩たちの発表を見て、自分に来るのか不安に思っていたが、何とか無事に終えることができた。」「聞き手に研究内容が伝わるよう、丁寧に発表できてよかった。」「他校の生徒や保護者の方々の意見や指摘のおかげで、さらに研究を深める良い機会となった。」「普段関わることの少ない他校の人たちと意見交換ができて、すごく有意義な時間であった。」といった感想が多く聞かれた一方で、「一度に多くの人に伝えることは難しかった。」「考えていることが聞き手に伝わりにくかった」などの感想もありました。

### 三校合同課題研究発表会を終えて

八木 美実乃 さん(代表発表班)

私たち英語班が学校代表としてステージで発表をしました。学校代表というプレッシャーだけでなく、質疑応答を除くすべての発表を英語で行うことにとっても緊張しましたが、発表を通して話し方や質問への答え方など多くのことを学べ、良い経験となったと思います。英語で発表することは、英語班だからという軽い気持ちで決まったことでしたが、いざ発表原稿を作ってみると、

英語を聞いて理解できる語彙で、研究の核心を伝えることが難しく、研究が中断することもありました。しかし、このことがきっかけで研究により真剣に取り組むことができました。壇上でも落ち着いて発表でき、質疑応答もスムーズに行うことができました。多くの質問から得られた新たな知見を今後の研究に生かしたいと思いました。



代表発表への質問



ポスターセッション(化学班)



ポスターセッション(生物班)



ポスターセッション(国語班)

竹原 陽斗 さん(閉会式生徒代表)

どの班の発表も興味深い内容で、実験方法や検証方法も工夫され、多角的な視点で捉えた考察が加えられていました。全員が課題の設定から情報収集、整理・分析、まとめ・表現に至るまで、班のメンバーと協力し合い、議論を深めることができたと思います。また、探究活動を通じて、仲間と意見を交換し、主体的に考える姿勢を身に付けることができました。

この合同発表会は、三校が一堂に会して交流する貴重な機会であり、参加者の方からの質問や感想をうかがう中で、私たちに寄せられた期待、私たちが果たさねばならない責任についても、痛感しました。社会の変化が予測不可能な現代において、次世代を担う私たちが、様々な問題から逃げずに、解決に向けてそのプロセスも楽しみながら、向き合っていかなければならないと思いました。